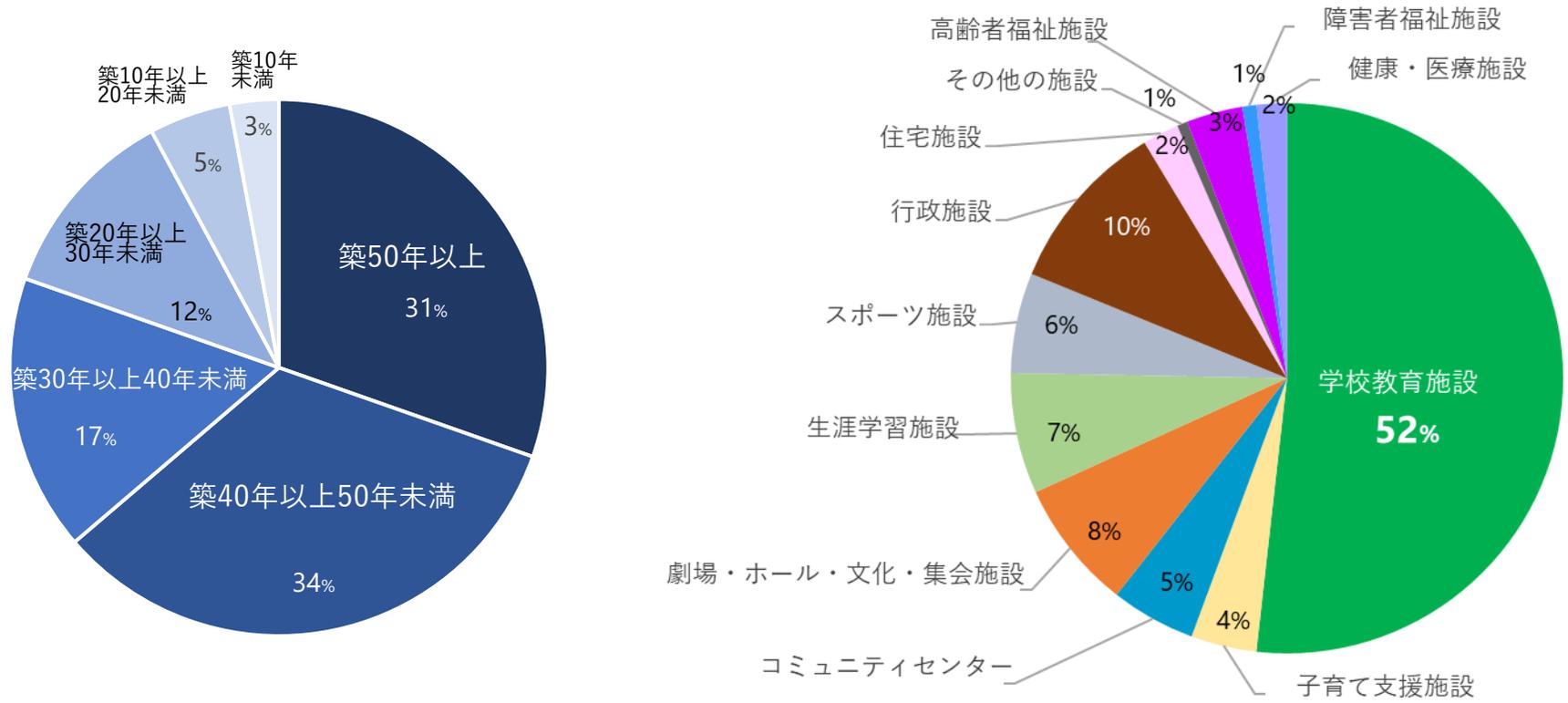
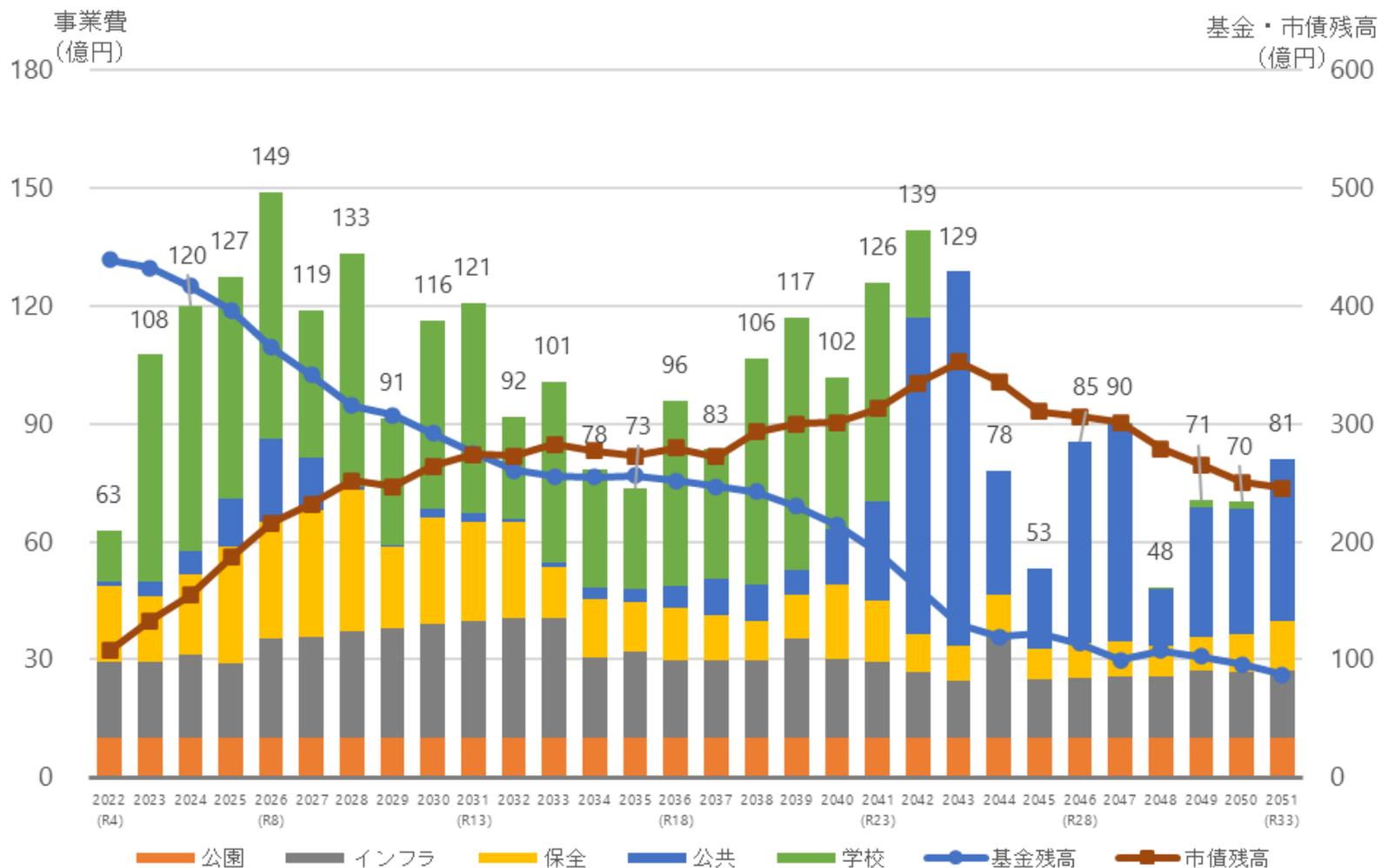


投資的経費の支出を踏まえた武蔵野市の今後の財政の見通し



本市の公共施設のうち、築30年以上が8割以上、築50年以上が3割以上を占めており、今後、これらの更新時期が続々とやってくる。この公共施設全体の半分以上を学校施設が占めている。

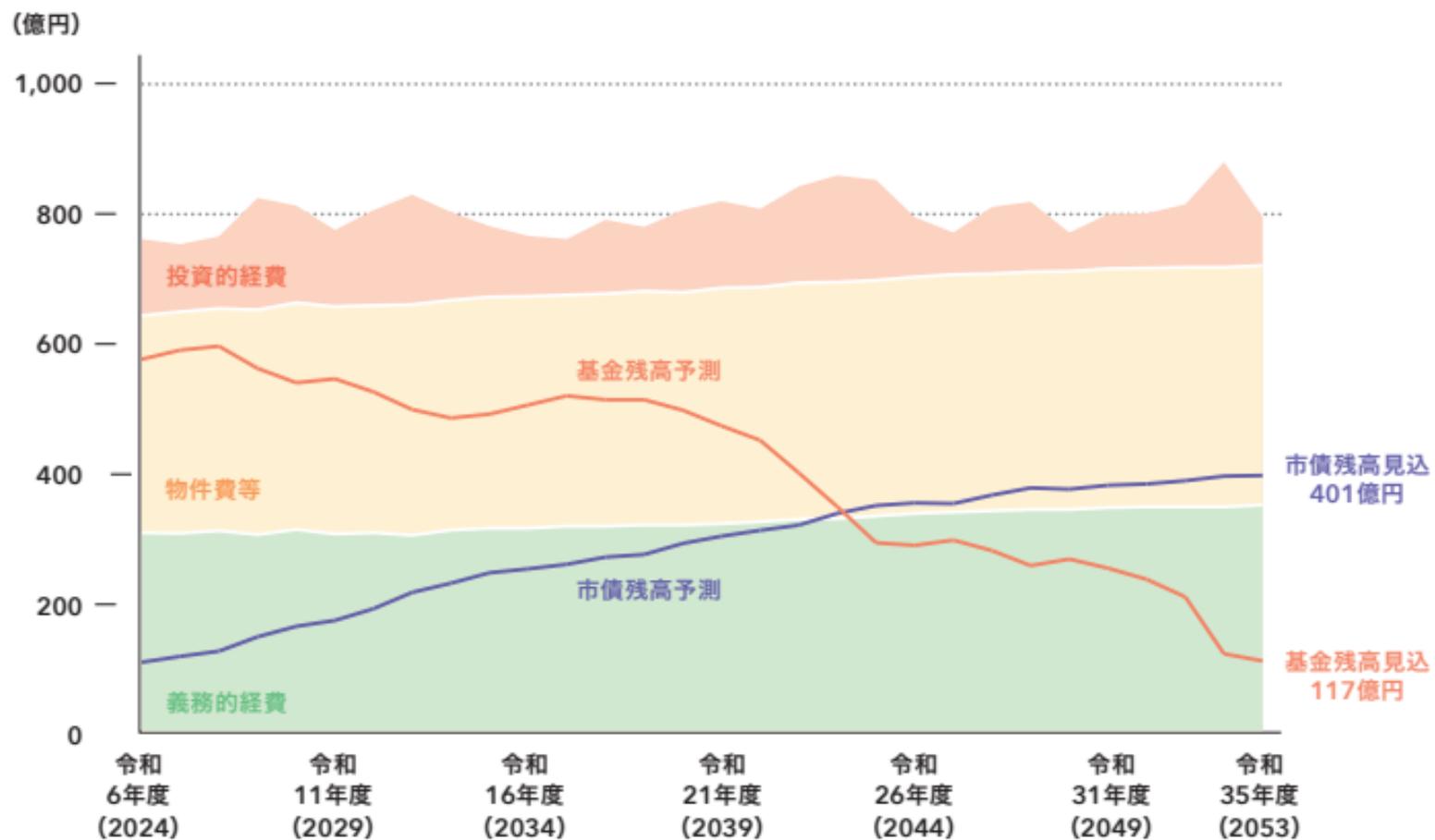
投資的経費の支出を踏まえた武蔵野市の今後の財政の見通し



本市の「公共施設の大更新期」が令和5年度からすでに始まっている。この中で、特に前半において学校施設の更新のボリュームが突出して大きくなっている。

この大更新期の乗り切るために、これまで貯めてきた基金（貯蓄）を使い、さらに足りない分を市債（借金）により補っていく必要がある。

投資的経費の支出を踏まえた武蔵野市の今後の財政の見通し



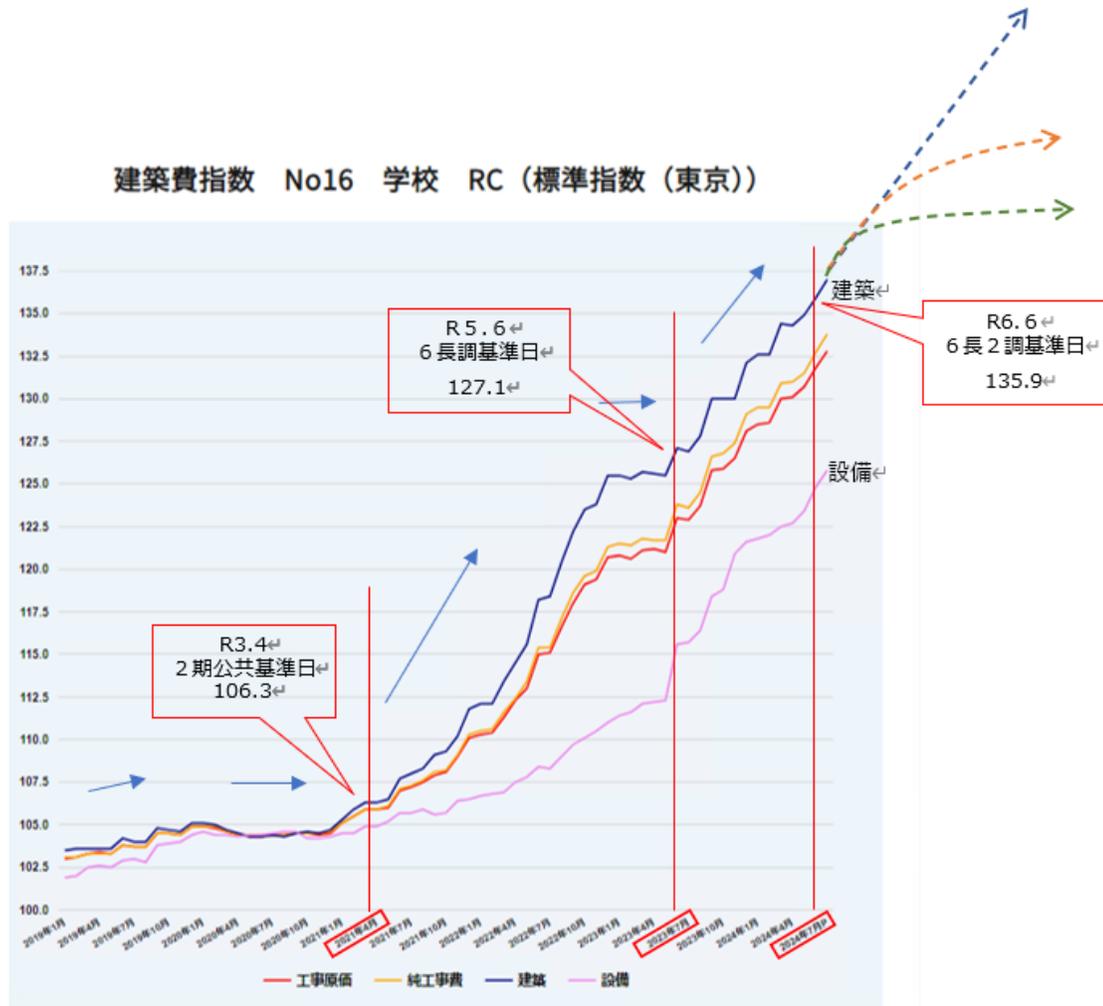
一般会計全体の財政シミュレーションにおいても、基金が減り、市債が増える方向性は同様。

30年後の基金残高の見込みは約117億円（R6年度末現在約606億円、約80%減）、市債残高の見込みは約401億円（R6年度末現在約119億円、約237%増）である。

★武蔵野市の長期財政シミュレーション（令和6（2023）～令和35（2053）年度）

武蔵野市第六期長期計画・調整計画（令和6年）

投資的経費の支出を踏まえた武蔵野市の今後の財政の見通し



建築費指数グラフ/一般財団法人建設物価調査会 (東京 2015 (平成 27) 年平均=100)

19.57%増 (建築のみ)
6.9%増 (建築のみ)

近年の物価及び労務費の高騰が顕著である。現在の社会情勢、また世界的な状況を鑑みると、さらに不透明な情勢が続くことが予想され、今後の経費見込みも間違いなくさらに上振れるものと思われる。

予算は有限のリソースであるため、今後、公債費（借金の返済）が嵩むに連れて、投資的経費以外のソフト事業に係る予算が圧迫されていくことになる。

本計画の改定の中で、**今後の学校改築における仕様や面積が適正な範囲内となるような仕組みを組み込む**ことで、「武蔵野市の子どもたちのために良い学校を作る」と、武蔵野市が今後も持続可能な自治体であり続けること」の両立を図っていきたい。